

小規模施設の災害対策

一人夜勤の時に災害が起こったら、私どうすればいいの？

医療法人社団 珠泉会

グループホーム『つつじの夢』

宮川 里織

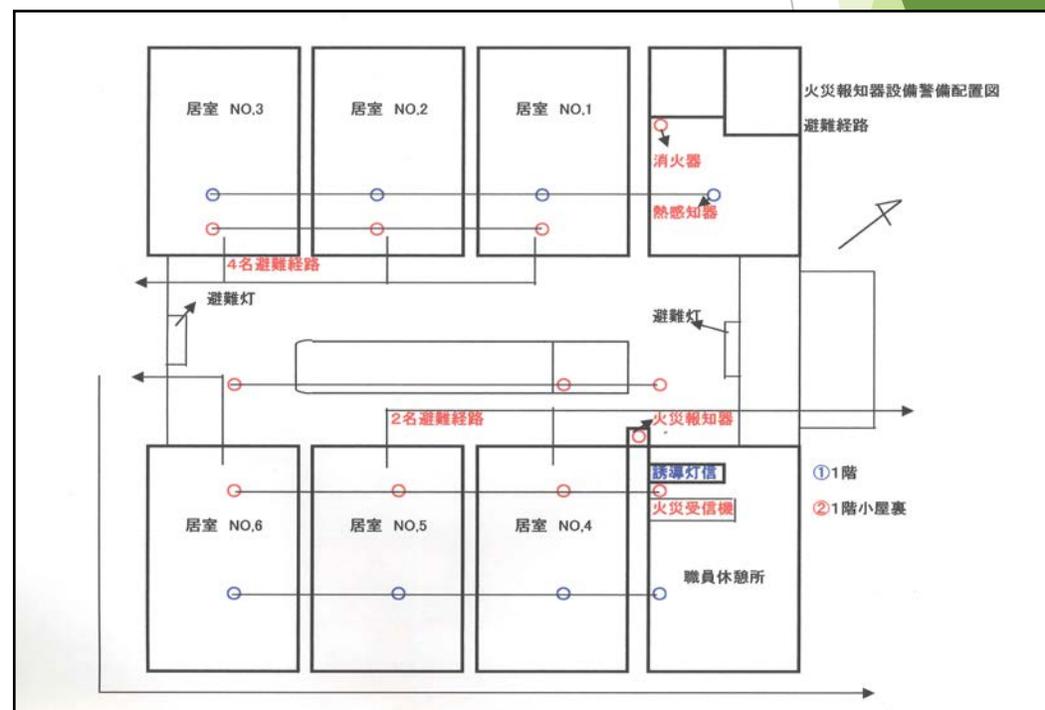
はじめに

▶『つつじの夢』では、夜勤の時間帯はスタッフが一人のため、「もし私が夜勤の時に火災や地震が発生したら、入居者を安全に避難させることができるのだろうか」と不安になった



▶災害対策マニュアルを再度確認したところ、実際の災害時に活用できるものにはなっておらず、毎月の防災訓練も緊迫感に乏しい

災害対策の見直し・強化





これまでの災害対策概要

- ▶ 災害マニュアルに基づき、防災訓練を実施。施設内の環境設備、備蓄品の管理を行っていた
- ▶ 防災訓練（月1回）：各種想定の下、「つつじの夢」にて実施。防火責任者、当日出勤者が参加
- ▶ 合同防災訓練（年2回）：アゼリアと合同にて実施。日勤スタッフ1名が参加
- ▶ その他訓練：外部講習参加（年1回、1名）、近隣地域の合同防災訓練に参加（年1回）



見直した結果と課題

①避難訓練

マニュアル通りの訓練は行えているが、一人夜勤の際に的確に対応するには不十分

②環境整備

非常灯が整備できておらず、夜間停電時には対応できない

③非常食等

栄養などの詳細を取り決めず、レトルト食品等を適宜準備。卓上コンロも災害時に速やかに使用するには不十分

④連携体制

同じ敷地内にあるアゼリアの災害対策を把握していない

⑤災害マニュアル

基礎的内容の記載はあるが、細かな内容や応用が不十分



②『環境整備 1』

▶夜間の停電時、視界を確保するために、非常灯を設置したほか、ランタンやショルダー式懐中電灯を整備した



夜間停電時に備え、各居室に非常灯を設置



誘導灯の役割を果たすランタンを整備



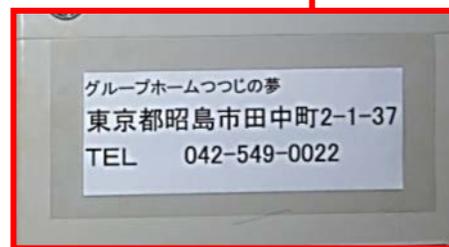
両手をつかえるように、ショルダー式懐中電灯を配備

②『環境整備2』

▶緊急時に、スムーズに対応できるように、プレート等を設置。
さらに、不審者に備え、ドアフォンも変更した



すぐに取り出せるように、職員室の入り口に懐中電灯と携帯電話を配置した



緊急通報時に、あわてないよう住所と電話番号を記載したプレートを設置



止水栓周辺の草を除去し、プレートを設置



不審者に備え、モニター付きインターフォンに変更。開錠の手順書を作成。提示した

③『非常食と保管場所の見直し』

▶アゼリア栄養課の助言をいただきながら、非常用食品を選定し購入した。
保管場所について検討した

★選択ポイント

非常時の使いやすさ、賞味期限、コスト、ゴミの処理、
普段の食品としての使いやすさ

「備蓄の日」

賞味期限を踏まえ、
11月19日に、
みんなでいただき、
備蓄に関心を
持ってもらう！

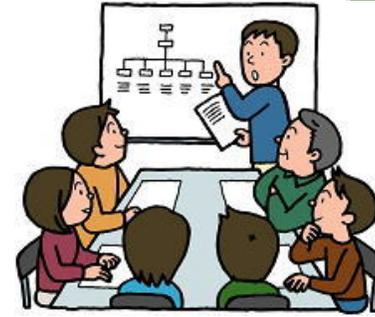


<メニュー例>

	朝	昼	夜
1日目	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g
	ツナフレーク 20g	コンポート 40g	さんま缶 25g(1尾)
			野菜ジュース 160g
2日目	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g
	鯖缶 50g(1切れ)	レトルトカレー 200g	ふりかけ 2.5g
3日目	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g	レトルト粥 280g
	鶏そぼろ 45g	ふりかけ 2.5g	いわし缶 25g(1尾)
		野菜ジュース 160g	コンポート

④『アゼリアの防災委員会に参加』

▶毎月1回、互いの災害対策を把握し、連携強化を図ることになった



ご入居者も参加したアゼリアとの合同訓練



⑤『災害マニュアル』の見直し・改定

▶緊急災害時に、迅速かつ安全に避難誘導できるよう、現在までの取り組みを反映させる形で改定中



まとめ

- ◆『オーダーメイド型防火実務講習』を実施したことにより、火災時の火災広がり軽減の基本的な行動、情報伝達や連携体制の重要性を学ぶことができた
- ◆必要な備品を購入し、環境を整備することができた
- ◆備蓄品について検討し、準備が進んだ



災害はいつ、どのような形で発生するかわからない。日ごろの訓練をおろそかにせず、常に新しい情報を入手し、スタッフ一丸となってお利用者の方の安全・安心を守っていきたい

ご清聴ありがとうございました